

## 県立高校の建築物のさらなる安全確保のための措置について（案）

県立高校の耐震化未完了の建物のうち構造耐震指標（Is値）が0.3以上0.7未満の建物について、安全確保に万全を期すよう、できる限りの対応について、再検討。その内容は以下のとおり。

### 1 構造耐震指標（Is値）が0.3以上0.7未満の建物 8校 10棟

①	奈良高校	教室・管理棟	（最小Is値	0.32）
②	生駒高校	屋内運動場	（最小Is値	0.35）
③	郡山高校	教室棟	（最小Is値	0.32）
④	山辺高校	教室・管理棟	（最小Is値	0.42）
⑤	磯城野高校	教室棟	（最小Is値	0.35）
⑥	大宇陀高校	教室棟	（最小Is値	0.30）
⑦	〃	格技場	（最小Is値	0.38）
⑧	王寺工業高校	教室棟	（最小Is値	0.54）
⑨	〃	屋内運動場	（最小Is値	0.58）
⑩	高田高校	教室棟	（最小Is値	0.37）

### 2 安全確保のためのさらなる措置

- ア カリキュラムの工夫等によりできる限り使用を回避
- イ 使用回避が難しいものについて柱の応急補強等の実施
- ウ 避難経路の確認等のソフト対策の充実

#### （1）ア、イについて

- ① 奈良高校（教室・管理棟）
  - ア 仮設校舎の工事進捗に応じて、普通教室を先行移動
  - イ 2～3階の極脆性の柱（変形能力が低く破壊度が高い柱）に、スリットを施し変形能力を高め、1～3階・階段室の開口部を壁補強し、強度を高める
- ② 生駒高校（屋内運動場） 使用停止
- ③ 郡山高校（教室棟） 使用停止
  - ア 使用を理科実験のみに制限、別校舎のピロティ部分の改修による教室確保後、完全使用停止
- ④ 山辺高校（教室・管理棟） 使用停止
  - ア トイレ等の確保ができないため、プレハブ事務所を設置、管理部門を移動
- ⑤ 磯城野高校（教室棟） 使用停止
  - ア 理科室、書道室等を他の教室で対応。
- ⑥ 大宇陀高校（教室棟）
  - イ 1階の第2種構造要素の柱（上からの重みに弱い柱）を鉄鋼支柱等で応急補強し、1～3階の極脆性の柱にスリットを施し変形能力を高める

- ⑦ 大宇陀高校（格技場） 使用停止
- ⑧ 王寺工業高校（教室棟）  
 ア 安全でない塔屋のある屋上は立入禁止  
 イ 1～3階に連続するせん断柱（せん断する脆い柱）を補強、1階の極脆性の柱にスリットを施し変形能力を高める
- ⑨ 王寺工業高校（屋内運動場）  
 イ 2階の柱を水平ブレース等で応急補強する
- ⑩ 高田高校（教室棟）  
 ア 屋上は立入禁止  
 イ 1階の極脆性の柱にスリットを先行実施し、屋上のパラペット（手摺壁）撤去により重力を軽減する
- ⑪ 奈良高校の一部の学年が一時使用する郡山高校城内学舎
- 教室・管理棟（最小  $I_s$  値 北側ゾーン0.34、  
 南側ゾーン0.58）  
 ア 特に  $I_s$  値の低い北側ゾーンの特別教室は使用しない  
 イ 南側ゾーンの下階に壁抜けがあり負荷がかかっている1階の柱を包帯補強等により応急補強する
- 教室棟（最小  $I_s$  値 0.56）  
 イ 倒壊の恐れがある1階のコンクリートブロック壁を鉄骨により応急補強する
- 教室棟（最小  $I_s$  値 0.61）  
 ア 崩壊の可能性がある塔屋がある屋上は立入禁止  
 イ 屋上受水槽の水量を減らし重力を軽減する

## （2）ウについて

ア、イの対策と併せて、耐震化未完了の9校において、専門家の意見も踏まえ、避難経路を再確認し、必要に応じて見直しを実施。併せて、引き続き避難訓練の実施を徹底。

### 専門家の意見

- ・地震発生時はまずシェイクアウト。揺れが収まったら慌てず避難。
- ・地震は火災と違い、落ち着いてゆっくり避難が原則。ただし、 $I_s$  値の極端に低い校舎から早く避難。避難後は校舎から離れる。
- ・「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」経路で避難。
- ・設置者の責務として、 $I_s$  値が低く、倒壊しやすい校舎であることを生徒・保護者に周知しておいた上で対策を考える。